



令和7年度飯塚市立飯塚小学校通信

飯友愛

(ゆうあい)

<学校目標>未来を志向し、心豊かに主体的に生きる子供の育成

令和8年3月16日
第13号
児童数 261名
校長 嶋田 千鶴

学校通信は
tetoru で配信
しています。
学校評価はHP
をご覧ください

感謝と成長のメロディ ～6年生を送る会～

3月3日(火)、全校児童が集う最後の集会「6年生を送る会」を開催しました。会場には6年生への感謝が溢れ、趣向を凝らした呼びかけや合唱、劇やクイズなどが次々と披露されました。笑いと涙が交錯する中、どの学年もこの一年間の大きな成長を感じさせる、堂々とした表現を見せてくれました。

とりわけ、6年生による合奏「ハルノヒ」は圧巻の一言。多種多様な楽器が織りなす複雑なリズムを完璧に乗りこなし、「チーム6年」の集大成にふさわしい力強い音色を響かせました。また、演奏後には各学年へ「言葉のバトン」が贈られました。1年生へ「勇気」、2年生へ「協力」、3年生へ「経験」、4年生へ「信頼」、5年生へ「挑戦」、そして教職員へは「支える」。卒業を前にした彼らが託したこの重みのある言葉を、私たちはしっかりと胸に刻んでいきたいと思ひます。



ご参観いただいた学校運営協議会の皆様、保護者の皆様、温かな見守りや数々の賞賛の言葉をありがとうございました。

学校の「顔」を次代へ ～児童会役員交代式～

同じく3月3日(火)、児童会役員員の交代式を執り行いました。

まず、旧役員から退任の挨拶がありました。会長を始めとした6年生役員からは、これまでリーダーとして学校を牽引してきた誇りと、在校生へ託す温かな思いが語られ、その言葉の一つ一つに重みを感じられました。続いて新役員の紹介が行われ、新児童会長が「より良い学校にしたい」という力強い決意を「飛」という文字に込めて表明しました。



児童会は、いわば「学校づくりのエンジン」です。新役員を中心に、全校児童が「明日もまた来たい」と思える、笑顔あふれる学校づくりに挑戦してくれることを大いに期待しています。

※個人情報保護のため、役員の児童名は記載していません。お子さんにお尋ねください。

3月17日(火) 第139回卒業証書授与式に向けて

3月10日より、卒業式の練習を始めました。練習初日から、6年生の立ち居振る舞いには「最高学年として、悔いのない式にしたい」という決意が溢れていました。その意識により、予定していた練習日程を短縮できるほどの目覚ましい仕上がりをを見せています。

式に参列する5年生も、合同練習を通して多くのことを吸収しています。6年生の凛とした所作や返事、心を揺さぶる合唱、そして振り返りで語られる言葉の一つ一つ……。それらすべてが、5年生にとって最高の「生きた教材」となりました。

いよいよ明日は卒業証書授与式。6年生一人一人の晴れ姿をしっかりと心に焼き付け、彼らが卒業した後の飯塚小学校も、5年生を中心にさらに輝かせていけるよう、全校で邁進してまいります。



よりよい飯塚小学校を目指して ～学校評価結果のご報告～

本号の裏面に、令和7年度の「学校評価アンケート結果」と「学校関係者評価」を掲載いたしました。今年度は、子どもたちの主体性を伸ばす課題解決学習、探究学習、縦割り活動による特別活動の充実に力を注いでまいりました。評価結果からは、本校の強みとともに、次年度に向けてさらに深めるべき課題が浮き彫りになっています。

学校運営協議会でいただいた評価を糧に、「一人一人が主人公」の「たい」のある学校経営をさらに加速させてまいります。

この1年間、本校の教育活動に御理解、御協力をいただいた保護者・地域の皆様に心より感謝申し上げます。

4・5月の主な行事予定 ※次年度、変更になることもあります。

<p>4月6日(月) 学校安全の日 着任式 始業式</p> <p>7日(火) 給食開始(2～6年)</p> <p>9日(木) 大掃除 入学式準備</p> <p>10日(金) 入学式(2～5年生は休み)</p> <p>15日(水) 身体計測(全) 給食開始(1年)</p> <p>16日(木) 視力検査(2・3年)</p> <p>17日(金) 視力検査(4・5年) 委員会活動</p> <p>20日(月) 学校安全の日 視力検査(1・6年)</p> <p>21日(火) NRT 学力検査①(2～6年)</p> <p>22日(水) NRT 学力検査②(2～6年)</p>	<p>4月23日(木) 全国学力・学習状況調査(6年) 心臓検診(1年)</p> <p>24日(金) 知能検査(2年)</p> <p>28日(火) 学習参観 学級懇談会 PTA 総会</p> <p>30日(木) 歯科検診(4～6年) 全国学調質問紙調査(6年)</p> <p>5月 1日(金) 学校安全の日 歓迎集会・遠足</p> <p>7日(木) 眼科検診(全)</p> <p>8日(金) 聴力検査(3・5年)</p> <p>11日(月) 聴力検査(1・2年)</p> <p>12日(火) 自然体験学習①(5年)</p> <p>13日(水) 自然体験学習②(5年)</p>
---	---

令和7年度学校評価アンケート結果及び学校関係者評価

【学校教育目標】
未来を志向し、心豊かに主体的に生きる子供の育成<「～たい」のある学校>

【学校経営の重点目標】

〈組織運営に関すること〉

- 単学級学年を含む学年組織体制づくり
- 効果的・効率的な校務分掌組織の再編
- 家庭・地域と連携した協力体制づくり

〈教育課程に関すること〉

- 子供の自己肯定感を高める実践
- 特別活動を核とした子供主体のくらしづくりの実践

〈研修に関すること〉

- 授業づくりにかかる研修の充実
- 教員の実践的指導力向上にかかる研修の充実
- 若年教員の指導力向上にかかるOJTの充実

【教育指導の重点目標】

自らかかわり、楽しみながら課題解決する子供の育成

☆は全員が回答を、★は教諭、講師が回答をしています。

評価項目	観点	努力点	評価(割合)%				平均点	平均P	成果と課題 (○) (●)	改善策(◇)	評価	学校関係者評価 (評価に対する意見)
			4	3	2	1						
組織・運営	組織マネジメントを生かした協働体制の確立	各部・各係が、学校教育目標の具現化に向け、学校経営の重点に基づいた企画により、自ら責任をもち校務分掌の遂行にあたることができた。 (効果的・効率的な校務分掌組織の再編と機能化(学年部・や・か・た分掌組織への再編))	45%	45%	10%	0%	3.4	3.2	○校務分掌を「目指す子供像(やさしい・かしこい・たくましい)」に基づいた3部会制と、2学年ごとの学年部制へ再編したことにより、会議時間の精選や情報共有のスピードアップが図られ、教職員が学年の枠を超えて協働する体制が整い、組織的な学校運営ができた。 ●新組織体制下での会議運営において、参加回数に個人差が生じた。	◇会議の精選とスリム化を図るとともに、一部の教職員に役割が重なりすぎないよう、組織全体で業務のバランスを見直す。 ◇低・中・高学年部内で各種委員会の決定事項や児童の実態をきめ細かく共有し、組織的な協力体制をより確かなものにする。	4	・授業、子ども達との関わりと日々多忙の中、子ども達のために注力していることに感謝している。 ・校務分掌に基づいた部会制の再編など組織的な学校運営が行われていると感じる。 ・今年度、前年度よりも改善されたことで更なるスリム化につながり、組織力がより強化されると思う。 ・業務を減らすことは、なかなか厳しいかもしれないが、なるべくスリム化させ、先生方が子どもたちに健康な状態で向き合えるような環境作りをお願いしたい。 ・国は教育現場にもっとお金を使うべきだ。
		「他者を大切にできる言葉を選び表現できる」「自他の良さを見つめる」「誰にでも気持ちよく挨拶ができる」児童をめざして学年経営や学級経営等にあたることができた。(やさしい子)	25%	69%	6%	0%	3.2					
	「自分の考えを工夫して表現する」「友達と協働して学びを深める」「意欲をもって課題に取り組み、工夫しながら追究する」児童をめざして学年経営や学級経営等にあたることができた。(かしこい子)	19%	63%	19%	0%	3.0						
	「健康保持や体力向上に励む」「黙って掃除に励む」「食事の大切さを理解し、感謝して食事をすすむ」児童をめざして学年経営や学級経営等にあたることができた。(たくましい子)	31%	56%	13%	0%	3.2						
学習指導	教育課程の確実な実施と子供の主体性を育む教育活動の工夫	★年間指導計画に沿って、計画的に教科の授業を行うことができた。	50%	44%	6%	0%	3.4	3.1	○「授業スタンダード」を主題研究の柱としたことで、教員の授業改善への意識がさらに向上し、特に児童が自ら問いを持てるような「課題設定の工夫」に重点を置いた授業づくりを推進することができた。 ●「地域のひと・もの・こと」を活用した学習では、山笠の関係者をはじめと多くの地域人材の協力により、地域への愛着は深まったものの、探究活動をより深化させる必要がある。	◇児童の「自分から」という主体性をさらに引き出すため、児童が自ら選択・決定できる場を一層充実させ、主体的な学びや活動を後押しする。 ◇生活科と総合的な学習の時間における6年間の学習内容を整理し、体験だけで終わらず、自ら問いを立てて解決する「探究のサイクル」を系統的に位置づけ、学びの質を高める。	3.8	・児童が自ら問いを持てるような授業づくりはとて有意義なことと思う。 ・スライドを見て、モンシロチョウについて、自ら学びたいようなあの学習スタイルは良かった。 ・主体性を引き出すということは非常に難しいと感じる。頭が下がる思いだ。いろいろな取組が楽しそうだと感じる。 ・学校内だけでなく、学校外に出て行き地域のことを知ることで、関心をもつ探究心を育む授業はすごいと思う。 ・地域との交流を持った学習が多く見られたことは良かったが、それから先、興味を持ち続けてくれればもっと良いと思う。
		★学習のめあてを設定し、まとめと整合した学習指導を行うことができた。	38%	44%	19%	0%	3.2					
		1時間の学びを課題解決的な学習過程として、児童の興味・関心を高める指導を工夫することができた。(授業スタンダードを核とした子供主体の楽しい学びづくりの実践の充実)	13%	75%	13%	0%	3.0					
		☆諸教育活動のねらいや内容を見直し、活性化を図ることができた。	10%	75%	15%	0%	3.0					
		★地域のひと・もの・ことを活用し、児童の課題解決力を高める総合的な学習の時間を充実できた。	13%	38%	50%	0%	2.6					
		★ICTの活用により教育課程の確実な実施ができた。	31%	50%	19%	0%	3.1					
研 修	学力向上に向けた授業研究、検証改善サイクルの機能化	★授業研究を全学年1回は実施し、仮説・着眼の有効性を検証することができた。	43%	50%	7%	0%	3.4	3.3	○毎月の学力向上委員会において、「トリプル80」等の各取組の進捗状況の確認及び、各種調査結果から見えてきた課題を職員で共有し、日常的な指導へ反映することができた。 ○低学年・高学年・特別支援の部会ごとに研究を進め、全ての学級で公開授業を実施し、互いの授業を見合い、検討を重ね、全教職員が自らの授業を客観的に見つめ直すことで、日常の授業改善に結び付けることができた。	◇学力向上委員会で共有した課題に対し「具体的にどう指導するか」という指導事例の交流を活性化させ、各学年での成功事例や、つまづきを解消した手立てを言語化して共有し、学校全体の指導技術の向上を図る。 ◇児童の多様な考えを引き出し、比較検討する場を設定するとともに、対話を深める「コーディネーター」としての指導スキルを向上させる。	4	・学力向上委員会で共有されたことをしっかりと生かした授業を希望する。 ・学力も個人差がかなりあり指導も難しいことと思う。先生方がいる工夫しているので子ども達もがんばってほしい。 ・日々の百ます計算や、全ての子どもがかけ算九九が言えるようになる取組など、日々の努力が学力向上につながっていると思う。
		★学力テスト等の結果を分析し、児童の学力の実態に基づいた学力向上の取組の推進を図ることができた。	25%	56%	19%	0%	3.1					
	★教職員のニーズに応じ、教職員の指導力向上をめざした校内研修に積極的に参加した。	63%	38%	0%	0%	3.6						
	★校外研修に積極的に参加し、学んだことを授業や教育活動に取り入れることができた。	31%	44%	25%	0%	3.1						
人権教育	確かな学力を身につけるための指導方法の工夫改善	★基礎・基本の定着を図るために、具体的な手立てを工夫することができた。	44%	56%	0%	0%	3.4	3.3	○基礎基本の定着を図る全体での取組や、専科教員による理科指導や習熟度別学習指導、入り込み指導により個に応じた指導を行うことができた。 ○運動会や大縄大会などの行事において、異学年が交流する「縦割り活動」を充実させ、各行事の中で「多様性を認める」「互いの良さを認め合う」といった人権の視点を取り入れた指導を行うことで、児童一人ひとりの人権感覚を育み、自尊感情の向上を図ることができた。 ●日常生活における言葉遣いについての指導が必要である。	◇年間指導計画に基づき、少人数指導やチーム・ティーチングなどの弾力的な授業形態を計画的に導入し、児童一人ひとりの理解度に応じたきめ細かな指導をさらに充実させる。 ◇人権学習で学んだ「相手を思いやる心・言葉遣い」を、生活のあらゆる場面で実践できるよう、日常的な声掛けや振り返りを工夫する。	3.8	・異学年が交流する縦割り活動は大事なことと思う。 ・異学年での交流を授業等で取り組まれ、それぞれの役割を果たしたり、相手の気持ちを考えたりして子ども達に取ってよい経験になっていると思う。 ・大縄大会の縦割りチーム編成は素晴らしいと思った。 ・様々な場面での縦割り活動は人権教育にいきでくると思う。 ・少人数指導など一人ひとりにきめ細かな指導をしている様子が分かった。 ・親になって「人権学習」の大切さを実感している。「人権学習」や「平和学習」に使える時間がこれからもなくならないでほしいと思う。 ・子ども同士でよく遊んでいるのを見かけるが、言葉遣いが悪いと感じる。
		★日々の授業で、個に応じた指導など指導方法の工夫や改善を図ることができた。	31%	69%	0%	0%	3.3					
	☆全教育活動の中に、人権・同和教育の視点に立った学習を推進することができた。	35%	60%	5%	0%	3.3						
	☆様々な体験活動を通して、豊かな人間関係を作る児童の人権感覚や自尊感情を高めることができた。 特別活動(異学年交流等)を核とした子供主体の楽しいくらしづくりの実践の充実	30%	65%	5%	0%	3.3						
生徒指導	基本的生活習慣の確立	☆挨拶や学習の準備・整理整頓など、基本的生活習慣の定着を図ることができた。	30%	60%	10%	0%	3.2	3.4	○毎月の支援委員会によるいじめアンケート等の分析や全校児童への年2回の教育相談を通じ、きめ細かな実態把握と必要に応じた迅速な相談・支援体制の構築に努めた。 ○不登校傾向にある児童への対応において、担任一人が抱え込むことなく、養護教諭や管理職、専科教員などが連携した対応を行うことができた。 ●情報モラル指導を継続しているものの、SNSトラブルの発生や、生活リズムの乱れから不登校傾向に陥る児童が見受けられる。 ●教職員や友達に挨拶ができる児童は増えてきたが、自分から進んで保護者や来客に挨拶ができる児童がまだ少ない。	◇「いいとこみつけ」を通じた相互承認の場を大切にしながら、日々の学習の中でも「自分もやればできる(自己肯定感)」や「人の役に立っている(有用感)」を味わえる授業づくりを推進する。 ◇スマートフォンやゲーム機の使用ルール、情報モラルに関する指導を家庭・地域と連携して強化していく必要がある。 ◇全教職員が率先して挨拶の手本を示すとともに、代表委員会等による主体的な啓発活動を支援し、家庭や地域とも足並みをそろえた挨拶運動を推進する	4	・挨拶運動の推進は地域と共に進めていく事が大事だと思う。 ・学校以外での挨拶ができる(自然と言える)ようになると良いと思う。 ・比較的飯小の子どもはあいさつはできていると思う。 ・今後の課題にもなっている挨拶についても、地域全体で取り組んでいかなければならない。 ・「挨拶」について、学校運営協議会でも話し合ったが大人が手本にならないのかなと思う。必ず立ち止まってしっかり挨拶する子どもたちも一定数いる。学校・地域の大人みなで伝えられるといいと思う。 ・SNSに対する学校の対応は非常にすばらしいと思った。 ・スマホ、SNSなどの問題提起からパンフレットという形になるまでの協力体制が素晴らしい。 ・「いいとこみつけ」の取組について、大変興味深く感じました。自己肯定感を高めて、自分のことを大好きになって他の人のことも認め大切にしてほしい。 ・自転車の乗り方の指導をもう少し徹底してほしい。
		☆児童とのふれあいを大切に、児童に寄り添った姿勢で接し、児童理解に努めることができた。	45%	55%	0%	0%	3.5					
	☆家庭や地域等と連携した生徒指導上の問題に対して、取組を行った。	40%	55%	5%	0%	3.4						
	☆一人一人のよさを認め、自己肯定感や有用感、充実感を味わわせるような授業や活動に取り組むことができた。	35%	60%	5%	0%	3.3						
	☆通信や懇談会・家庭訪問等を通して、家庭との連絡を密にし、児童の理解を深め、健全育成に努めることができた。	40%	60%	0%	0%	3.4						
	☆交通事故防止や不審者対応等、児童の安全対策を行うことができた。	45%	55%	0%	0%	3.5						
いじめの早期発見・早期対応	☆毎月アンケートを実施し、いじめの把握をし、対応することができた。	65%	35%	0%	0%	3.7	3.6					
	☆保護者等と連携しながらいじめの早期発見・早期対応をし支援委員会で報告することができた。	60%	40%	0%	0%	3.6						

評定尺度の基準 4……達成できた(80%以上) 3……だいたい達成できた(60~79%) 2……あまり達成できなかった(40~59%) 1……達成できなかった(40%以下)